

ヤゴレンジャーを募集しています

ヤゴ救出作戦リーダー(講師)「ヤゴレンジャー」の育成・派遣を行っています

豊島区では、平成13年度(2001年度)より子供たちの環境教育の一環として「学校プールのヤゴ救出作戦」を実施し、都会でも子供たちが生き物に触れられる自然体験の場として各小学校に定着しております。今後もヤゴレンジャーの充実を図るため、一緒に活動していただける大人の方を募集・育成しています。

豊島区のヤゴ救出作戦環境教育支援のご紹介

環境教育支援プログラム『プールにいるヤゴ等の生きもの学習(ヤゴ救出作戦)』

小学校での理科や総合的な学習の時間、環境学習の一環として、プールを季節限定ビオトープとして活用し、普段の生活のなかで身近に接することができるヤゴを、児童、学校職員、保護者、さらに講師のヤゴレンジャーが一体となって救出し、生命の大切さを実際に感じてもらうことを目的としています。

ヤゴレンジャー:学校プールに発生するヤゴを題材に、都会の中の自然と生き物について、教材を使用した授業及びプールのヤゴの救出(採集)指導を行います。

ねらい:学校のプールが身近な水環境であることを認識し、ヤゴ(トンボの幼虫)やその他の水生生物が住む環境や生き物の命のつながりなど、生物多様性について理解を深めます。また、プールで育ったヤゴはプール清掃時に流されてしまうことを知り、それを救出し育てることを通して命の大切さを学びます。

内容:学校プールに生息するヤゴなどを実際に観察しながら、教材等を使用し水生生物の体の仕組みなどを学習します。各校の実情に合わせて、ヤゴレンジャーや保護者(協力員)と一緒に子供たちがヤゴ救出を行い、ヤゴ以外の様々な生き物が生息することを実際に確かめ、子供たちがヤゴを飼い、トンボに成長する過程を観察します。

としまヤゴレンジャーの1年間



お問い合わせは、下記発行元まで！お待ちしております！

発行元:豊島区環境清掃部環境政策課事業グループ
電話:03-3981-2771 FAX:03-3980-5134
Eメール:A0029180@city.toshima.lg.jp

編集:としまヤゴレンジャー・ニュースレター編集委員会
デザイン/制作:ARU株式会社
表紙:ヤゴレンジャー大津さん(模型) 梶野さん(写真)

掲載されている記事・写真・イラスト等の無断転載・複製を禁じます。

としまヤゴレンジャー・ニュースレター

学校プールは 生き物がいっぱい

生物多様性を高める活動に参加しませんか

- としまのヤゴ救出作戦手作り教材
- ヤゴ救出作戦の1年間のプログラム
- 大正大学高橋先生のヤゴ救出作戦環境教育論
- ヤゴ救出作戦レポート2022
- トンボの産卵場づくりでエコアップ



SDGs未来都市としま



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。
令和5年3月発行

表紙:ヤゴ模型教材(段ボール)



としまの ヤゴ救出作戦 手作り教材

としまのヤゴ救出作戦は、豊島区環境政策課の環境教育支援のもと、住民が主体的にヤゴレンジャー(ヤゴ救出作戦講師)を担っています。都会の住民が講師になるためには、プールという場のほかに「学習教材」がとても重要になります。今回は、としまヤゴレンジャー20年超の歴史から生まれた、公式と個別に手作りされたオリジナル教材をご紹介します。

公式紙芝居を動画にして「としまなまる」チャンネルで公開中!



※2次元コードはYouTubeリンク



公式テキスト

段ボールヤゴ模型



「虫がこわい」児童も段ボールの模型なら見てくれるかと思い製作しました。実際のヤゴと比べようとして触ってくれた児童もいます。普段生活している場所に、様々な生命があること。いつもとちょっと視点を変えてみるだけで、野鳥や昆虫、草花にいたるまでとても興味深い生き物が学校にはいます。生命が愛おしくなる様な工夫をして指導していきます!(大津)

写真から出る下アゴの模型



普段折りたたまれているヤゴの下アゴが、グリーンとのび赤虫を捕る様子がよくわかります。子供たちに赤虫役をやってもらい、動きを見せると盛り上がります。身近な環境であるプールに、たくさんの生き物が生息しているのは大発見だと思います。ヤゴを自ら採って育てる事で、生き物にふれあう楽しさと、昆虫の生態を学んでくれたら嬉しいです。(町田)

羽化殻の標本



ヤゴが羽化したあとの抜殻を何かに活かさないかと考え、羽化殻の標本を作ってみました。昆虫の本体を使って作るものと比べて、羽化殻は作業工程も少なく気軽にチャレンジできます。トンボの種類によってヤゴの形や大きさが違う事の面白さがひと目でわかるのが羽化殻標本の良さです。持ち運びも容易なので季節を問わず観察ができます。(小島)

親子あてクイズ



代表的な4種類のヤゴとトンボの写真を使い、授業の冒頭に「親子あてクイズ」を行います。昆虫が好きな子も苦手な子も、クイズには積極的に参加してくれます。「自分たちの学校にはどのヤゴがいるかな?」とワクワクしながらプールでのヤゴ救出作戦に参加できたら、それはもう100点満点です!(村上)

ヤゴ救出作戦の 1年間のプログラム ~清和小学校編~

●ヤゴ救出作戦
3年生が救出作戦

5月



9月



11月



●プールのエコアップ
3年生がワラを束ねて2年生と協力してプールに入れる授業

●ヤゴの紙芝居ワーク
3年生が各自ヤゴの独自紙芝居を作り、2年生に説明して来年へヤゴの活動を引き継ぐ授業

区内18校実施

ヤゴ救出作戦レポート2022



高南小学校



ヤゴレンジャー森さんから3年生は公式テキストでトンボやヤゴの事前学習をしてから参加したので抵抗なく楽しそうに救出していました。アカネが300匹だったので今年はギンヤンマの産卵場を早めに作ろうと思います。

担任の先生から

救出前のヤゴの生態のお話して興味がない子や虫嫌いの子も「やってみたい!」と前向きな気持ちになったようです。ヤゴレンジャーの方々が、積極的に関わっていただいたおかげで、授業後には飼育がしたい子も増えました。

長崎小学校



このほか、仰高小・巣鴨小・清和小・西巣鴨小・朝日小・朋有小・池三小・池袋小・南池小・目白小・要小・椎名町小・富士見台小・千早小・高松小・さくら小、以上18校で開催しました。*工事による休止は駒込小

大正大学高橋先生のヤゴ救出作戦環境教育論

「誰もがどこでも取り組める教材開発に期待」

※高橋ゼミでは、毎年ゼミ生がヤゴ救出作戦に参加しています。

「ヤゴ救出作戦」という環境教育実践には、さまざまな意味づけが可能でしょう。そのうち特に重要なのは、都市部での生物多様性保全と教育を同時にすすめられる、ということにあると思います。自然が極めて少ない豊島区という環境であっても、私たちが一定の配慮をすることによって、豊かな生き物の生息空間を生み出すことができ、それを子供の体験的な活動に連結させた教育として展開できるからです。長年、豊島区のヤゴレンジャーたちによって取り組まれてきたこの活動は、ソフト面では一応ノウハウが完成していると考えられます。そこで次のアクションには、誰もがどこでも取り組めるようになるべく具体的な教材群の開発が期待されるでしょう。自然に恵まれていない環境下の学校は全国には沢山あり、それらの学校が、生物多様性という観点からヤゴ救出作戦という教育実践に乗り出してもらうようになること、そしてそれに豊島区での経験と教訓を活かせることを期待しています。

公共政策学科 高橋正弘教授

プールを使わない季節に、多種多様な生き物のいのちが育まれる環境にするために、人の手で整備、創出する活動をしています。9月頃、植物組織内産卵型のトンボのために、プールにワラを入れます。ワラはヤゴの隠れ家になったり、ミジンコの発生源になり、プールの環境が豊かになります。さくら小・高南小・富士見台小・西巣鴨小・長崎小などで実施。

トンボの産卵場づくりでエコアップ

池袋第三小学校

3年生の秋にワラを浮かべ4年生でヤゴ救出を実施しています(村上)



植物組織内産卵型(ギンヤンマ)

清和小学校

3年生が翌年ヤゴ救出をする2年生と実施しています(町田)

